

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
対馬市	佐須地区(椎根・小茂田・榎根・下原集落)	2年 3月17日	年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	57ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	52ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1ha
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	56ha
(備考) 中山間直払い協定面積 41ha 中間管理機構利用面積 40ha(更新時時点)	

- 注1:③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

地域に中心経営体があり、農地バンクを活用した集積も進んでいる。一方で、中心経営体の圃場の分散や拡大に伴う機械等の更新が遅れているため、効率的な耕作ができていない。地区内で平成29年度から新産業として養鶏が開始され、鶏肉事業への参入も計画されているが、まだ発展途上である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

佐須地区の農地利用は、中心経営体である農業法人5経営体と認定農業者1経営体と農業者1経営体が担うほか、現在耕作している担い手以外から担い手に順次引き継ぎ、集積・集約化に努める。

認定新規就農者の受入れを促進することにより新たな担い手の確保に努める。

中心経営体の経営の安定のため、施設の整備や機械器具の導入を促進する。

養鶏業(鶏肉の生産加工販売及び鶏卵の生産、販売)に取り組む。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。